

Wri News Letter 73

1978 11月3日 戦争抵抗者インターナショナル日本部 大阪市あべの区旭町2-22

大阪・反原子力7週面をふりかえって

それは甘からにはじまつたー



水田あう

今年のハ原子力はごめんだけ。大阪7週面最大の特色は、まず運動のスタイルが男たちもふくめて変りはじめたということだ。

それは、まずオーにたとえば7回にわたって開かれた実行委員会の段階から、ことしの行事で基調報告するかしないか、スローガンをかかげるか、かかれないか。決議はどうするかをめぐって意見が別れたとき、意見のちがうもの同士がみな奥に根気よく、最後の最後までいねいに議論をかさねた末、各グループがそれぞれのものをビラ一枚に書いて持ちよりそれに表紙をつけて報告資料集として、参加者にわたすということを決めた。その決め方にも表われている。

そして、週面は、何よりも女たちで始まり、女たちが中心になり、はじめていきいきとしゃべり、叫び、女たちの様々な活動が力となって終始展開された。といっても誰も反対しないだろう。

たとえば週面のメインである24日、中之島の大会。アンケートの一つにこんなのがある。「明るくニコニコ楽ししいものは、すべて疑ってみて方がよい、とある思想家が云っていた。してみると……とりわけ主催者としての女性達をみれば、けっこう楽しそうじゃねえか。楽しんでいるじゃねえか。……この手のヤツは、疑ってみただ方が良さそうだ。……おばちゃんま族に罪はないのだ。彼女らをまつりあげて、今このワイセツな状況に加担している自称「運動家」たちの思想性が向題なのだ。」

このような皮相な感想は、たった一つしかなかったけど、それは原発が男自身にも歯向ってくる男社会の矛盾であること、そして原発は私たちの中に深く根ざしている男的なもの、男的発想との陣いであることを何より教えていると共に、その陣いが、私たちの手でようやく端緒に付いたことをも示していると言えらるだろう。

☆

☆

☆

さて8週面へのトップとして、10月22日、昼11時〜3時・ハ女・ことものゲリラ作戦は、

☆ 従ってしてよむ方は、この名記入、50円の手紙代を添付の送付用封筒に半紙半紙6〜10枚事務所へ送って下さい。

女ごどもはもとより、そのダンナ・恋人・友人をまじえた30余人。天王寺公園と大阪駅前人民広場、大陸橋通路、阪急前歩行者天国などワケ所で、ビラ千枚を配りながらくりひろげられた。

ゲリラ作戦とは、仮面や衣装、小道具を持ってデモりながら、街頭即興劇を分ち分位を手あたりしだい、見物客をまきこんでやるのである。

アメリカのシンガー・レッドも飛び入り参加して音楽がはじまる。

「もし若狭湾に地震が起ったら」「原発はどうなるの？」反物がさあっと地上に何本もひろがる。「臨時ニュースを申し上げます」アナウンスの声。ダンボールの原発建物模型が地震でゆれ出す。発煙筒がたかれる。

「いま死の灰が京都から大阪へ向っていまオレ……消防団員の「緊急ヒナン」の警報……ドクロマスクに黒マントの「死の灰」が大きく舞うように踊り回る。このあとのアピールは、当然効果的で、ビラは誰一人すてる人はいなさい。

☆ ☆ ☆

同日、4時～9時・解放会館でひらいたシンポジウムへ女へわたしの反原発は、屋島の熱気を強く残さず、40人ちかいた女たちが、いまかかえている問題を、原発を媒介にすることによって、ひとつひとつ具体的に、よりいっそう明らかにしていく場となった。

それは、だんなとの関係のことであったり、いま自分が立っている生活基盤そのものに對する疑問であったり、男と女のことだったり様々だ。

だがそれはただの話し合いに終わったのではない。すでに新聞でも報道されたように男女差別のへ原子カの日ポスターの配布・展示を私たち中止し、すぐ回収を要求する声は、その夜すぐの文案づくり、ギリギリ、プラカード、徹夜でつくった横断幕、胸にとりどりのセツケンとなった。

23日は午後、有志10余人の大阪府・通産局への申入れ行動は、笑い声もでる交歩の中で配布揭示をしないとの確約をとりつける成果をあげた。

☆ ☆ ☆

この週面をふりかえって、私たちは生れてはじめてといていい位、実によく動いた。それはもちろん、男たちの協力もあってである。

それにしても、28日へ反原子力フェアーが終了の帰り道

「反原発は、女が今まで自覚してなかつた女自身のかを、自覚していく運動やねえ」

「自分が行かへんかったらアカンのや、という気になつて、みんな出てこなおれんのやわ」と話したことは、私たちをひとしくつき動かした出した新しい反原発運動の質をも語っているとは云えないだろうか。

☆古切手・国鉄切符のコレクションをしています。これを送付した封筒に貼付切手・不用のときは、時々まとめて返送を、

立って並ぶ方がよく目立つ。それならばと、こんどは「気をつけ」の大号令。6人の兵士が起立する。

「二列縦隊、右むけ右。」「匍伏前進のはじめの。」男たちは路上に腹ばい。「有事」「立法」「粉碎」と叫びながら、心斎橋通りを大丸の方向へむかでのよう

に進み出す。

反国婦人会はそれを見送りながら、「お父ちゃん」「あなたあー」「行かないで」「人殺しなんかやめてえー」と叫ぶ。すわ何事と立止る通行人たち。ゼラをみんな手を出して受けとる。

それを何度かくりかえししながら、大丸まで。そこから引返して、こんどはナンバ駅前までの約一時間。

いやはやアワレな男たち、もうへとへと。ヒジはすりむけ、スボンの膝はまるで雑布みたいで路面をみがきつけて、地獄の戦争状況を現出したというわけ。

「もう戦争はごめんや」とは、男たち全員感想。さてことしは去耳のようにタバコの火をつけられる

ようなことはなかった。というより、「オッ、モンヤヤ」などと声がかかって女たちのモンヤ姿は、なぜか

とても人気があった。ごころうさん、なんて云われるし、あ、さりびらを取ってくれるのが多かったのだが、

これは一体どういうこつちやろう。

その反応のなかに、逆にだりぶ右傾してきてるとい

う気がしたのは私の感ぐりだけだろうか。

あさひまふちから 3日 2 (キ)

○ まずおやび、ここ十日ばかり郵便物のセイリ、返信事務が全然できず、しばらくおゆるし下さい。

① 11月5日 成田三三三・奥田海子さんの救援会(三支部)会員総会。PM1時〜とちろ梅田・大融寺

② 11月6日 PM6:30 八日高に原発たてさせへんぜ 借負料金を不揃い連合V花の応援団大集合、肉いてび

つくり市民講座へ電気料金ののうくりVとは。ちよつと型やぶりのオモシロイ集りを考えています。ぜ

ひ。同封のビラもよんで下さい。(とちろ森宮(借金全返) 務局公試(赤十字)とすると大へん)

③ 8日へ何が何でも原発に反対する女たちのゲループVの22日の行革について総括公試PM9丸信旅館

④ 9日AM10、宮本礼子さん公判・大阪地裁。

⑤ 11日PM6:30 シンボジウム入女と反原発Vへ22日のフッキー被爆者ニセの提題をもよく考えたいし

ところ、梅田大融寺。(女たちのゲループ主催)：

⑥ とちろかく反原字力週刊が終つてほつと一と息と

ちうところだ。ガドツコイ、そうもいかなひ。2日今日知斗合さんの裁判傍聴へ京都へいき、とんでかえつて、いまこれをつくつている。朝直に刷りあげて6日集会までに届くよう発送したいのたいひですら。